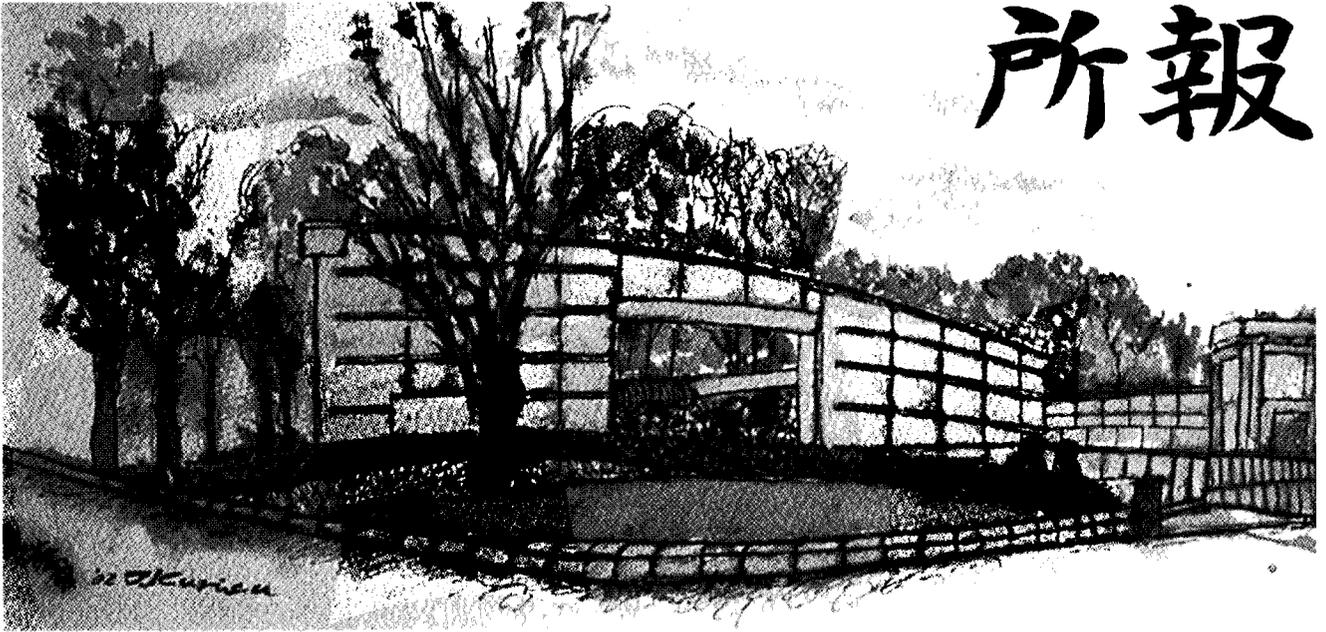


# 所報



平成15年2月



## 先人に学ぶ

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社取締役会長 佐藤 孜

現在、世界経済は、困難な局面にあり、先進国を中心に、不況からの脱却及び不況回避の方策の急務等、各国がそれぞれの文化や歴史を背景として、経営の在り方を模索している。いわゆる、これまでの「株主資本主義」「株主価値最大化を目指す資本主義」といった考え方から脱却した経営理念の存在の承認である。1999年5月のOECD「コーポレートガバナンス（企業統治）に関するガイドライン」において、企業を取り巻く多様な利害関係者、例えば従業員、顧客、地域社会、国、地球環境などの重視が強調されていることもその一例と考えられる。

そこで、私は、これからの経営においては、「命令による統治」ではなく経営理念の「共感と共有」ということが重要な鍵を握っていると考えます。株主価値最大化だけでは、社員はもとより企業を取り巻く多くの人々の共感を得ることは不可能である。特に若い次世代を担う人達の胸を打つことは、限りなく不可能に近い。経営は、経営理念に対する多くの人々の共感と協力を得て発展する。新技術の開発や新市場の創生には、全員が結集する企業理念が不可欠である。おそらく、

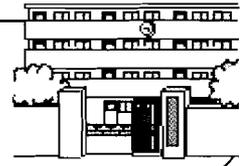
この考え方は、経済界をはじめ、教育界を含めたあらゆる組織体にとって共通するものではなからうか。全員に感動を与えないメッセージは、全体に浸透し得ないし、不毛のものとなるであろう。

この経営理念の「共感と共有」の基礎となるのは、リーダーに対する信頼と共感である。古くから「徳治主義」という考え方があるが、その意味することはリーダーの人格への尊敬である。人格主義に対する信頼である。もちろん、少数のリーダー層の人格だけでなく、多数の人々の人格の向上が社会を安定させ発展させる。全体のレベルが向上した中からリーダーが選ばれ、全員がそれぞれ役割分担をして協力し、前進することが求められる姿である。しかも、人間の成長には終わりがなく、そして、人格の陶冶にも終わりは無い。

「人間は努めている限り迷うものである。」「しかし努めている限り救われる。」という文豪ゲーテが「ファウスト」で述べた言葉は、時代を超えて、今も新鮮に心に響くものがある。我々は先人に学び、時流に迎合せず、歴史を貫く真実なるものを求めて、世代を超えて「共感と共有」を持ち続けたい。

### もくじ

○巻頭言…………… P. 1	○コラム…………… P. 5
○特集 学校評価～その役割と目的～… P. 2	○教育研究・教育情報の紹介…………… P. 6
○校(園)内研修の進め方について(2)… P. 3	○教育関係資料の紹介(2)…………… P. 7
○研修講座だより(3)…………… P. 4～5	○教育センターひろば…………… P. 8



今、学校は説明責任に努めることが求められています。同時に、地域に開かれた学校づくり、自主的・自律的な学校づくりを推進することが期待されています（中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」1998、教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」2000）。「学校評価」は、その実現の鍵を握る教育活動等に対する自己点検・自己評価です。

## 1 学校評価って、またその役割は？

戦後、学校評価の推進に先駆的な役割を果たした幸田三郎は、その著書『学校評価』（1964）の中で、学校評価を、次のように定義づけています。

学校全体を対象として、一つの組織体としての学校が、その本来の機能をどの程度果たしているのかを、教育の目的に基づく一定の基準に照らして、包括的に、しかもできるだけ客観的に判定し、それに基づき学校が行う活動全般についての改善方策を総合的、有機的観点から立てるのに役立たせる意図をもってなされる評価である。（下線は筆者によるもの）

<下線(1)から分かること＝学校評価の内容や方法>

- 内容：学校教育が有している「機能」に係る達成状況
- ★「機能」：教育基本法第一条、学校教育法第十八条などに定められる目的

学校教育目標は、その目的を具体化したもの。

- 方法：一定の基準を定めて、包括的に、できるだけ客観的に
- ★「一定の基準」：各教科の評価基準など
- ★「…客観的に」：数値目標を定めた評価や、「学校評価委員会」による評価など共同体制による評価は、そのためのもの。

<下線(2)から分かること＝学校評価の役割>

- 役割：学校が行う活動全般について改善方策を立てるのに役立てる

★「…活動全般」：教育活動＋経営活動

教育活動とは、教育課程等の実施状況。

経営活動とは

教育課程等の実施に関与する教育諸条件（人的・物的・財政的・組織運営的な条件）の活用状況。

この経営活動の評価を合わせて行うことによって、学校教育の改善方策が具体化できるのです。

## 2 学校評価の実際例(1) —包括的な評価例—

大阪府では、平成10年度に学校教育自己診断票を作成しました。その診断票には、次のような観点項

目が設定されています。

中項目例	小項目例
1)教育目標・教育計画	・教育課題の設定 ・教育計画の作成 ・教育課程の編成 など
2)各教科の指導	・指導内容の精選と工夫改善 ・学習指導の工夫改善 ・評価方法の工夫改善 など
3)道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導	・年間の指導計画 ・学校行事の工夫改善 ・評価方法の工夫改善 など
4)生徒指導・進路指導	・問題行動等の指導 ・家庭・関係諸機関との連携
5)経営組織	・校務分掌と相互の連携 ・協働体制づくり ・危機管理体制づくり など
6)施設・設備	・教育環境の整備 ・施設・設備の拡充 ・施設・設備の管理 など
7)研究・研修	(後述)
8)情報管理	・公文書の作成・管理 ・個人情報管理・保護 ・教育情報の収集・管理 など
9)家庭・地域等との連携	・家庭・地域等との連携 ・校種間相互の連携 ・PTA活動 など

(1)～(4)は教育活動に係る項目、また(5)～(9)は経営活動に係る項目です。この評価活動を日常的なもの、機能的なものにするためには、例えば小項目は数が多くならないよう、各学校の実態（必要性、実施の可能性等）に応じて精選し設定することが大切です。

## 3 学校評価の実際例(2) —「校(園)内研修」を例に—

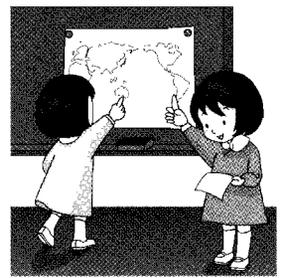
校内研修は、その様態のいかんにかかわらず、教師の実践力を高め、ひいては幼児児童生徒への教育効果をあげるうえでも重要な経営活動の一つです。その評価に当たっては、その趣旨・ねらい等から、次のような観点（例）が考えられます。

- ①子どもの実態等を基に実践上の必要性や緊急性を踏まえた課題が主題として設定されているか（到達目標の設定を含む）
- ②研究推進組織、実施計画（組織、日程、時間、内容等）が円滑に進められるよう立てられているか
- ③よりよい雰囲気の中で討議され、解明された点や残された問題点が明らかになっているか
- ④研修や研究のための図書、資料等が適切に整備され、また平素から活用されているか など

### 【最後に】

学校評価を行うことは、評価活動のゴールではなく、それは学校としての質的向上を図るためのものです。そして、学校評価を充実させることは共通の目的達成のための教職員の協働的な営みを高めます。また、保護者・地域からの理解や信頼を深め、協力をより一層得ることができます。

## 校（園）内研修の進め方について（2）



校（園）内研修については所報70号（平成14年6月発行）で基本的な考え方をお示しました。今回は、特に、授業研究における協議会の進め方の一例を紹介します。校内における授業研究の進め方は、各学校で様々な工夫がなされ実施されていると思いますが、協議会を充実させるための方法の一つとしては次のような方法があります。

**授業前** 「子どもの学びを育む」という点で、授業のどの場面をどのような視点で見るのか、事前に確認する

授業者………どのようなねらいで指導計画を立て、子どもにどのような力をつけさせたいのか など

授業参観者……指導の重点と改善策はどこにあるのか など

— 授業での見取る視点（例） —

子どもの学習状況（発言、つぶやき、表情等）、発問や指示、板書の仕方、教材や教具、学習の展開、評価など

（授業者の仮説や問題意識等を変づける根拠となるデータとしてテープおこしをしたものやVTRなどが必要になる）



**手順1** 授業者自身の課題意識にそって授業を振り返る。

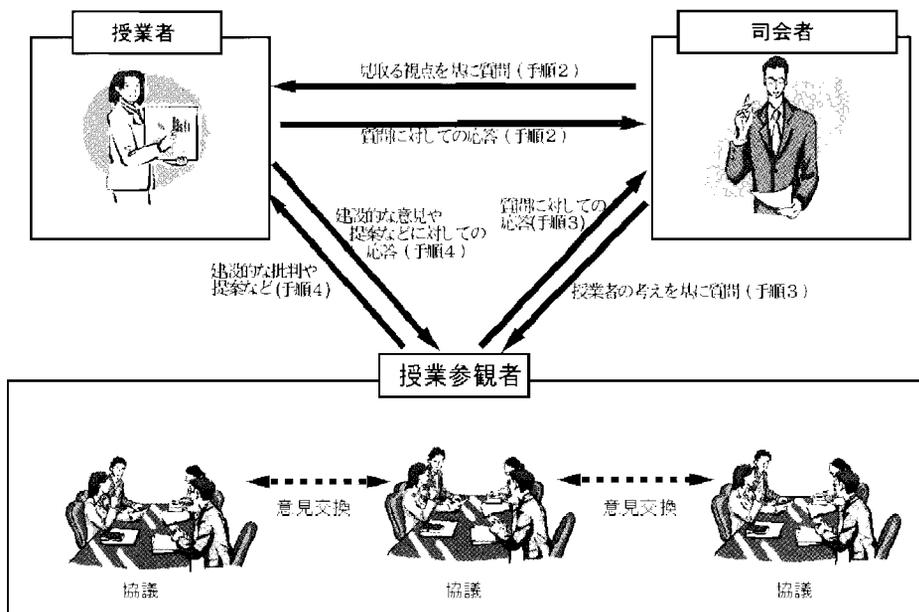
**手順2** 司会者が授業者の振り返りの中で気づいたことを質問し、授業者が答える。

**手順3** 司会者は、授業参観者に、授業者の考えと同じか、ズレが生じているかを聞き、授業参観者は、そのことについてグループに分かれて協議したり、他のグループと意見交換をしたりして、思いや考えを司会者に伝える。

**手順4** 授業参観者が授業者に対して建設的な意見や提案などを行い、その意見や考えに基づいて授業者が自分の考えを補足したり、考え直しをしたことについて説明したりして、協議を深める。

**手順5** 司会者は、協議を通して共有できた考えや課題などをまとめるとともに、次時の協議会の方向性を示す。

### 校内研修スタイル（例）



校（園）内研修を有意義なものにするためには次の2点が重要です。

- ① 授業者は自らの授業（保育）実践上の課題やその改善等について明確に示すこと。一方、授業（保育）参観者は、それを理解して協議すること。
- ② 研修会終了時においては、自らの幼児児童生徒徒観や指導観などを見直し、自らの課題と照らし合わせて新たな実践方法を創造すること。

# 研修講座だより (3)

10～12月に実施した研修(一部)の概要をまとめました



## 校内研修推進教員研修講座

授業(保育)力を高める校(園)内研修の進め方

日本女子大学教授 澤本和子

授業研究を通じた、教師の授業(保育)力を高める校(園)内研修の進め方の実際ということで城山北中学校において授業と校内協議会を公開していただきました。澤本先生からは、子どもに寄り添い、子どもを見取り、単元を構想する力量を高めることが大切であり、そのためには校内(園)研修の充実を図ることが重要であることに併せて次の2点について指導助言していただきました。

- ① 発問のタイミングや指名の仕方、机間指導の動きなど、視点を絞り込んだ協議をすることにより、自分自身の指導スタイルを見直すことができる。またそのことで指導力の幅を拡げ、様々な授業場面での柔軟な指導が一層可能になるということ。
- ② 子どもがどのような発問や意見に反応しているかをつぶさに見取り、合わせてその背景や原因を協議することで、子どもを育むための支援がより明確になってくること。



## 教職経験6年次教員研修講座

ステップアップをめざして

文教大学女子短期大学部講師 檜崎教子

女子柔道でアトランタオリンピック銅メダル、シドニーオリンピック銀メダルを獲得した文教大学女子短期大学部講師の檜崎教子さんから「生き方に学ぶ」というテーマで、ご自分の柔道人生について語っていただきました。

道場を経営しているお父様から手ほどきを受けて柔道を始めたこと。高校や大学で、自分の長所を見つけだし伸ばしてくれた素晴らしい指導者やコーチと巡り会ったこと。しかし、「世界選手権やオリンピックに出られたらいいな」ぐらいの気持ちでは絶対に出られないで壁にぶち当たったこと。

アトランタオリンピックの後、目標を見失い一時競技を中断していたこと。そんな時々ライバルでもある友人やコーチとのかかわりを通し自分自身を見つめ直した結果、柔道に取り組む考え方が変わりシドニーオリンピックに向けて再挑戦することができたことなどをビデオや試合での裏話を交え楽しく話していただきました。夢の実現に向かって努力した話を聞かれた先生方は、自分自身の生き方に照らし合わせ「元気が出た」と感想を言っておられました。

最後に話された次の言葉が大変心に残りました。

**こうなりたいという将来の自分のイメージをハッキリもって、  
それに向かって努力すること**

この言葉は檜崎さんの人生訓だそうです。



# 教 養 講 座

講座の主題

世界の山々をめざして

講 師

登山家 田部 井 淳子

講座の概要

「みなさんこんにちは！」明るい挨拶ののち、「話にはスピード違反がないから…」と軽妙なテンポでお話が始まりました。エベレスト登山を初め、7大陸の最高峰について順次お話をされました。オセアニアの最高峰カルステンツピラミッドがある西イリアンのニューギニアでは、そこで生活されている人たちは、自分たちと比べ、驚くほど力強くジャングルのぬかるみの中を歩かれることから、自然の中で生き抜くために強靱な体力をもっていることであるとか、女性だけで南極大陸に行かれた時、南極の厚さ2000mを超す氷河の圧倒的な存在感や雪原にキラキラ光る氷の結晶を見て、自分が自然の中で生かされていることを深く実感されるとともに、「この美しさを汚してはいけない」と感じ、排泄物は全部持って帰られたことだとか、すべてが興味深い内容でした。最後にエベレスト登頂について話され、次のような言葉で講演を締めくくられました。

1400日間の準備期間、130日間の登山、ほんの一瞬の山頂滞在を振り返り、成功の鍵を握っているのは特別な体力や技術ではなく、多くの人があつた目標に向い「本当にやるんだ！行くんだ！」という強い意志を持ち続けること

今もこの精神で登頂にチャレンジしていらっしゃるそうです。



## コ ラ ム

### 「ほめる」とやる気

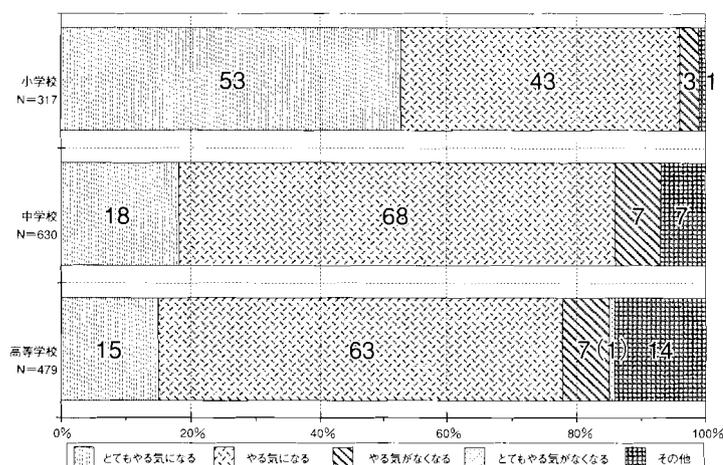


平成13年7月に国立教育政策研究所が文部科学省の委託を受け、小学校第5学年、中学校第2学年、高等学校第2学年の合計1,426人に学習意欲に関する調査を行いました。右図は、その中で「先生にほめられたとき」についての結果です。このグラフから、どの学年もほめたり、はげましたりすることが学習意欲を高めることに効果があることがわかります。

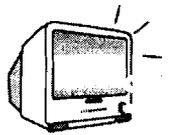
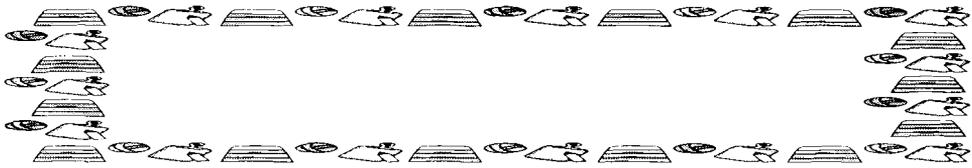
ほめられることで、気分が良くなり、血行が促進され、ストレスが軽減されると言われています。また、ほめられると大きな自信が得られるとともに、自分の成長に気付くことができ、自らの可能性を伸長させる“推力”になると考えられます。

「学習意欲に関する調査研究」

先生にほめられたとき



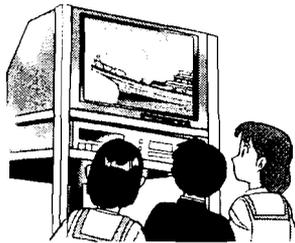




# Video Tapes

教育センターでは、各学校等における教育活動等を支援するため、教育関係資料を計画的に収集・整備しております。今年度購入したビデオ教材を紹介します。

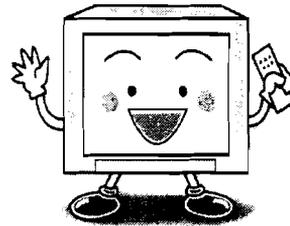
個人（団体）3本まで、5日間以内で貸出ししています。



四階ソフトウェアライブラリにどうぞ

## 人権教育

『少年犯罪その罪と罰』  
『いのち輝くとき』



## その他

『知っておきたい応急手当－急病のとき、けがのとき－』  
『夏服の少女たち』  
『ビデオ 生徒の心をつかみたい ～スクールカウンセリング～』

- ① 「言葉にならないことば」を感じ取る
- ② 不登校・いじめとその対応
- ③ 教師・悩みと成長

# 図書資料室が生まれかわりました！

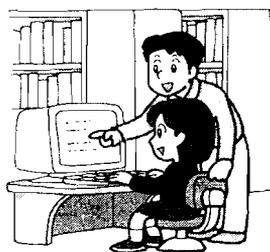
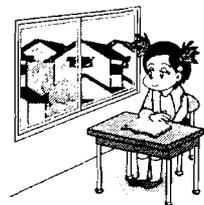
## 多くの人々が集うゆとり空間のある図書資料室へ



もっと気軽にご利用いただくために現在の3階から2階ロビー隣りに図書資料室を移転しました。また、室内のレイアウトを見直し、ゆったりとした雰囲気の中でご利用いただけるようになりました。

## ほしい、必要な図書資料が入手しやすい図書資料室へ

図書資料を精選し、新しい教育に対応した図書資料をますます充実させます。  
教育雑誌のバックナンバーを開架し、教育情報を有効に活用できるようにしました。



## 資料が短時間で検索できる図書資料室へ

コンピュータを設置し、図書資料を探したり、インターネットを活用したりすることが可能になりました。

**次世代ITを活用した  
未来型教育研究開発事業**



市内小・中・高・養護学校26校を教育センターを介してインターネットに高速接続し、教育方法等の研究開発を行っています。

**複数教員による  
学級指導に関する実践研究**



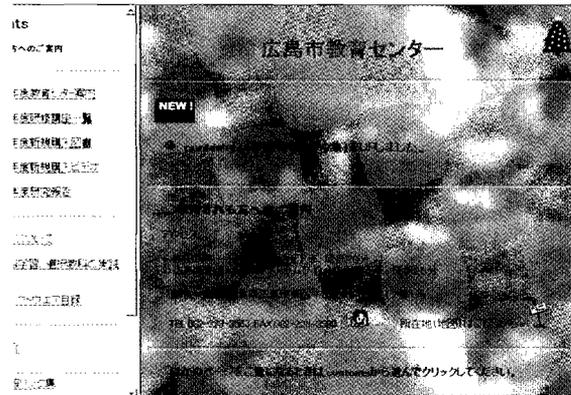
小学校第1学年において、学級数が2学級以下で1学級の児童数が36名以上の学級に対して非常勤講師を配置した学校を対象に、複数教員による学級指導の有効性や効果的な指導方法などについて研究を進めています。

**館内作品展示**



広島市立学校の教職員の作品（絵画、写真、書、彫刻、工芸）を館内に展示しています。教育センターを利用される際、ぜひご鑑賞ください。展示にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

**事業内容等の紹介**



Web ページにおいて、事業内容等について紹介しています。役立つ情報を提供できるように、次年度もコンテンツの充実を図っていきます。

**教育研究活動の支援**



先生方の研究活動の奨励事業を行っています。本年度は15グループが事業に参加されました。※グループ名等については所報71号を参照してください。

題字 広島市立宇品中学校長 三高 道裕  
表紙絵 広島市立五日市観音小学校教頭 栗栖 恒久

**編 集 後 記**

年度末のまとめや来年度の準備に向けてご多用のことと存じます。教育センターでは皆様のお役に立てるように、より一層努力していきたいと考えております。来年度もよろしくお祈りします。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号

TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580

E-mail: edu-center@city.hiroshima.jp

Website: http://www.hcec.ed.jp/

広 X6-2002-23